

第65回 河内長野市地域公共交通会議録

会議名称	第65回河内長野市地域公共交通会議
開催日時	令和7年1月29日（水） 午後3時00分～
開催場所	河内長野市役所 802会議室
公開・非公開の別 （非公開とした 場合はその理由）	公開
傍聴者	3人
出席委員	別紙出席者名簿のとおり
会議次第	（1） 富田林市からの報告事項 （2） 令和6年度地域公共交通確保維持改善事業（フィーダー）にかかる事業評価について （3） 楠ヶ丘地域乗合タクシー「くすまる」の運行ルート等の変更について （4） 令和5年度河内長野市地域公共交通会議会計監査結果について （5） 公共交通網リ・デザインを見据えた情報収集のための実証実験結果について （6） 石見川・小深・太井・鳩原地域バス「楠坊」のダイヤ及び運賃の改定等に伴う地域公共交通利便増進実施計画の変更について
会議内容	別紙会議内容のとおり

第65回河内長野市地域公共交通会議内容

発言者	内容（要旨）
事務局	第65回河内長野市地域公共交通会議開会の案内 会長交代の説明 新規委員及び新規事務局職員の紹介
東部会長	会議の成立の発言
事務局	「議題1 富田林市からの報告事項（富田林市交通不便地域（彼方上地区）における既存のタクシーを活用した実証実験の実施について）」の説明
富田林市	【富田林市からの報告事項（富田林市交通不便地域（彼方上地区）における既存のタクシーを活用した実証実験の実施について）富田林より説明】 「交通困難地域である彼方上地区の公共交通導入に向けて平成30年から検討を始めて、ワークショップ、住民に対してアンケート等を実施し令和4年11月から12月に第1回実証運行をおこなった。しかし、収支については1割も満たさない結果となった。 その結果を受けて、第2回実証運行に向けた運行計画（たたき台）を作成し、富田林市交通会議に回ったところ色々な意見があり、第2回実証運行に対する需要を見極め、更なる機運醸成を図ることを目的とした既存のタクシーを活用した実証実験を行う。 河内長野に関係する前回より変わった所は、河内長野駅を発着する事である。」 （各委員及び事務局の主な発言は以下の通り）
日野副会長	地域の人たちが、それぞれの駅の周りの施設を使うために利用されているのか、鉄道駅を使って天王寺や難波等に外出するため使う需要が多いのか、この辺りは事前の調査で分かっているのか
富田林市	これまで、地域においてワークショップや、アンケート調査を行った結果に基づきますと、この地域の生活拠点が河内長野駅周辺の商業施設や、医療施設が多いことが調査から分かった。中には其処から南海電鉄にのって堺方面、大阪方面、大阪市内に行かれることも想定しているが、主には河内長野市内の店舗等を利用されている方が多いのかと富田林市としては、分析している。

日野副会長	以前にも議論があったが、隣接する地域で共同でコミバスとか、そういうバスのサービスを出来ないかと議論したことがある。 生活圏がそこなのに、その自分の住所の市の役所に行こうとしたらものすごく遠い、コロナワクチン１本打つのもなかなか大変などの話を聞く。そういう所で交通だけでなく、両市の保健や、福祉であったり、含めてやりとりできるようにならないのかな、前から思っていた。ただ、今回はそういう意味では、富田林市さんの地区の人たちが、河内長野市の生活圏で使えるように便利になれたらいいと考える。どちらの目的で駅前を使われるのが多いのか、結果が分かれば報告をお願いしたい。
東部会長	どのような取り組みが対応されているのか、こちらの方も市町村間で情報共有しながら取り組んでいただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。 それでは次に移らせていただきます。
事務局	議題２ 令和６年度地域公共交通確保維持事業（フィーダー）にかかる事業評価について事務局より説明 （質問なし）
事務局	それでは、本件について、ご承認いただけますでしょうか。また、本事業評価については、この後、事務局より国へ報告をいたします。その際の細かな表現等の修正については、事務局に一任ということでよろしいでしょうか。 （異議なし）
東部会長	それでは、次の議題（３）「楠ヶ丘地域乗合タクシー「くすまる」の運行ルート等の変更について」事務局より説明をおねがいします。
事務局	議題３ 楠ヶ丘地域乗合タクシー「くすまる」の運行ルート等の変更について事務局より説明
日野副会長	前回もくすまるの値上げについて報告を受けたが、５～６年度、４年度、５年度、６年度利用者数の変遷というのは分かっているのか。

事務局	令和４年度の年間利用者数については、19,061 人です。それに対して令和５年度については、19,406 人で、やや４年度より５年度は増加傾向である。令和６年度については、１２月実績ですが、５年度の約８割程度に利用者が落ち込んでいる。 令和４年度と令和５年度の利用者数の変化のところで、令和４年９月から日祝日ダイヤについて連休となったのも利用者が伸びていない要因の一つである。
日野副会長	頑張っていた層が高齢化して移動しにくくなって、利用者が減っているとも考えられる。 地域の方がやる気があって、それを行政も支援しながら事業者もそれをサポートしてくれている。ただ、計画の中の事業化がされてない。地域主体の取組を地域公共交通計画のなかに盛り込んで、協議会の中で議論できるようにすると、いろんな意見も皆さんから出していただける機会になるのではないかな。
大石委員	今回の変更にあたって、ルートの見直しにあたって調整過程の中で何かポイントか、どういうやりとりの中でこういう話が、出てきて変更に至られたのかとかご紹介いただきたい。
事務局	昨年度楠ヶ丘地域の住民の方に対してアンケートを実施し、その中で今ある停留所から遠い地域の方から、家の近くに停留所を作って欲しいとのご意見が、地図上の空白の地域それぞれからでた。 希望があった地域に道幅調査を行い、道幅が通行可能かつ停留所を設置して欲しいとの希望があった地点を３つ選定した。 交通事業者の方に通行テストを実施し、安全な交通が確保できたのが今回の停留所だった。 その上、河内長野警察にも安全上問題が無い事を確認頂き、延長ルートと決定しました。
大石委員	世代が変わるとき、何か変化を起こすときの苦労を体験することで、それが実際形になると、愛着を持って使おうというふうな何か成功体験のサイクルの一端がお聞きしたような気がします。
東部会長	それでは、次の議題（４）「令和５年度河内長野市地域公共交通会議会計

	監査結果について」事務局より説明をおねがいします。
事務局	議題４ 令和５年度河内長野市地域公共交通会議会計監査結果について事務局より説明 （質問なし）
事務局	それでは、議題４については承認ということでよろしいでしょうか
東部会長	それでは、次の議題（５）「公共交通網リ・デザインを見据えた情報収集のための実証実験結果について」事務局より説明をおねがいします。
事務局	議題５ 公共交通網リ・デザインを見据えた情報収集のための実証実験結果について事務局より説明
事務局	説明は以上になりますが、共創パートナーとして一緒に実証実験に取り組んでいただきました事業者様の方から、ご意見をいただければと考えて思います。 南海電鉄松崎委員よろしいでしょうか。
松崎委員	販売実績に関して、思ってたより少ないんじゃないかというお声もあるかと思うが、蓄積されたデータをもとに深堀りすることによって、今まで調べていたこととの差異であるとかを元に、いろんなモビリティの適正化というか最適化を図っていければと思う。
事務局	谷埜委員お願いします。
谷埜委員	バスの現状について、我々からもお伝えしたいと思います。 業界全体で人手不足が進んでいると言われておりますが、厚労省の調査を見てましたら５０代の運転手が全体の６５％を占めてます。逆に３０代以下が１５％しかおりませんので、中長期的な目で見たらさらに今後厳しくなることが間違いない。 路線バスにつきましても、路線バス事業の大体７０％が赤字路線やと言われております。その中で、今回実証運行に何とかご利用につなげるところがないかと、一緒にやらせてもらった。 実証運行につきましては、正直申しましたらモックルバスよりもご利用が

山田委員	少なかったと、ただ、コミュニティバスの使い方ということでは、駅に入ったり、新たな活用方法を試してみましたので、我々としても検討できる余地があったという点で、非常に良い実験だったかなというふうには思っています。 私も初級編ですが、スマホで便利に電車バスに乗ろうと言うことで受講させてもらいました。 高齢者のスマホ保有率が高い結果が出ている。 高齢者が増える中、スマホ教室を開催して頂き、活用する人が増えれば、バス、電車、利用率アップに繋がってくるというふうに思いました。
日野副会長	拠点間の移動がどのくらいあったのか、そこの目的はどうなのかということが大事かなと思う。立地適正化計画を策定する場合に、これが誘導区域のようになり、その間を公共交通で結びましょうということであれば、これとマッチする。そのような情報が欲しいなと聞きたいなと思っている。 今の話だと乗ってないからやめますとしか聞こえない。 コミバスとしての実験であれば、今南海バスも言われた、路線バス走っててモックルバス走っててその上実証運行走らせる中で、実験条件ほんまにこれでよかったんでしょうかというのがすごく気になっている。この実験だけで少なかったから駄目でなく、例えば南花台からの道の駅までの需要がかなりあったとかなかったとか、そういう意味での分析をしていただきたい。 この表を見てくださってというのはなかなか数字だけでは難しいので、できたらその分析をしていただいた上で、今まであんまりなかった拠点間の移動が、このバス乗って初めて出てきましたであれば、全体の数が少なくても、そこに新たな需要があったんだということであれば、一応目的を達成するということになると思う。 もし可能であれば国の方の、この事業の意図するところとかを、もう一度説明頂いて、この評価に関して次の、どうしたらいいのかというご指導を頂ければありがたい。
大石委員	共創パートナーのくろまろの郷とか、社会福祉協議会とかのお話を聞かれていれば、可能な範囲でご紹介いただけるとありがたい。 コミバスとして優先度は高くないという結果であったとしても、共創パートナーの方々がどういうとらえ方をしているのか、その辺りお聞きできることがあればと思いますがいかがでしょうか。

事務局	社会福祉協議会の担当者の方から、南花台の方は市役所に行けるバスがあって嬉しいというような声を聞いてますとおっしゃられました。 数字の結果でみますと、バスは使っていないのかなという所ではありますが、一定の利用というかニーズは把握できてるのかなと思いますので、ご指摘のありましたもう少し深い分析をすすめていこうとは思う。
大石委員	実際バスでその来た方がどれくらいいて、消費活動にどうつながったところが何かしらの形、仮説というか想像でも残しておいて頂けるとよいかなと思う。
谷埜委員	今回の知見をもとに河内長野市、また関係先の方々と色々共同して、公共交通をどのように維持していくと言う話を気づかせてさせて頂いた。
東部会長	それでは、今後も様々な分野、角度からの情報収集、分析を行いながら、また交通事業者とも連携しながら、持続可能な公共交通網の確保に取り組んでください
東部会長	それでは、次の議題（６）「石見川・小深・太井・鳩原地域バス「楠坊」のダイヤ及び運賃の改定等に伴う地域公共交通利便増進実施計画の変更について」事務局より説明をおねがいします。
事務局	議題６ 石見川・小深・太井・鳩原地域バス「楠坊」のダイヤ及び運賃の改定等に伴う地域公共交通利便増進実施計画の変更について事務局より説明
日野副会長	１点確認ですけど、定時になるので学校活動が出てきた時にはタクシーということですけど、タクシーの配車に何かルールは決められているのですか。
事務局	詳細については、学校側と協議中の段階ではあるんですが、クラブ活動の朝の行きは７時３６分発のバスというのが引き続きあるのですが、午前中で終わる際の帰りの便が無くなることになる。 その時、当日午前中までに生徒の利用の有無を確認し、その人数で台数を確認し配車します。

日野副会長	先程の運賃値上げを利用者数の増加で、収入が現状の1.65倍という話をされていたのですが、一般論としてバス料金を上げると利用者数減りますよね。その辺りを考慮されて1.65倍なのか。 これやってみて、やっぱり地元負担が出た時は、地元負担することについては地域の方々は了解されている、という理解でよろしいでしょうか。
事務局	通常であれば、運賃値上げをすると利用者は減ってしまうような仕組みになるが、価格については、本来であればもっと値上げを検討しなければいけないところであるものの、この金額であれば引き続き利用します、ということで協議が整った金額であります。ただ、それでも不足というか発生する場合は、やはり地域として負担も致し方がない。
日野副会長	通常の運賃値上げと違う所があって、地域の中でこういうものを残したいという中で、地域の中で値上げをされることなんでね、通常の値上げの時にお客さんが減るとは違うと思ってて、この後の利用者数には非常に関心がある。 地域主体の取組の中で、値上げもする利用もするというものの一つのモデルであるので、今後継続して検討して頂ければありがたいなと思ってます。
事務局	では本件についてご承認いただけますでしょうか
東部会長	以上をもちまして、第65回河内長野市地域公共交通会議を閉会いたします。 本日はお忙しい中お集まりいただきまして、まことにありがとうございました。 今後とも本市の公共交通の維持充実に向け、皆様のご協力をお願い申し上げます。 本日の会議を終了させていただきます。 長時間にわたりどうもありがとうございました。 ありがとうございました。